



前回の続きとして、授業場面での少人数教育の効果的指導方法について、考えていきます。

今回は、少人数教育に焦点を当てるので、指導案のかなりの部分を省略します。作成の細部については、過去の記事を参考にしてください。



新聞の編集のしかたや記事の書き方に目を向けよう

「新聞を読もう」 第5学年 光村図書

○ 単元の目標

目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むことができる。

○ 単元を貫く言語活動

新聞の窓を作る。

※新聞の窓 コピーした新聞記事をラミネートでコーティングし、新聞記事に対する自分の考えをラミネートに書いたもの。 (筆者が考案)

本時の展開 (総時数2時間 本時1/2)

1 新出漢字(語句)を確認する。

家庭学習と関連させて、短時間で効率よく行う。

2 教師が作った新聞の窓を提示する。

単元のゴールを示す。

3 本時の学習のめあてと方法を確認する。

めあて 「新聞記事の特徴をみつけよう。」

方法 「複数の新聞を読み比べ、特徴を見つけ新聞の窓つくりにつなげる。」

毎時間位置付ける。
一人一人の実施状況は、必ず確認する。

児童生徒の一人一人の興味
関心を、表情から把握する。

めあてをノートに書いたかを机間巡視で一人一人確認する。

一人一人の学習の進み具合を机間巡視で確認する。

4 教師が準備した、複数社の新聞記事（A3コピー）を個人で読み、「新聞記事の特徴」を見付け、ノートに書く。

※ 著作権法第35条ガイドラインにより、授業においては必要最小限、出所を明示すればコピーしてよい。

5 グループで、自分が見付けたことを話し合う。

6 グループ代表が、全体で発表する。
見出し、リード文、本文、写真教科書と関連させる。

同じ新聞社の同じ記事で、グループを編成する。
また、グループの話し合いの様子を確認し、助言する。

児童生徒が発表する場を必ず確保し、まとめにつなげる。

7 学習のまとめをする。

8 次の時の見通しをもつ。

次の時間は、自分の好きな記事をもとに新聞の窓を作る。

まとめをノートに書いたかを机間巡視で一人一人確認する。



大切なのは、「一人一人」に目を向けることと、児童生徒の「主体的な活動の場」を確保することです。

教師が一方向的に説明する「講義型」の授業とは、反対側にあるのが、少人数教育の効果的な指導法であるといえます。

少人数教育を効果的に行うことと、**単元を貫く言語活動を設定する**ことは、密接に関連しているのです。

少人数教育（国語）のよさをまとめると

- 基礎・基本の徹底を図るために、きめ細かな指導を行いやすい。
- 児童生徒の興味・関心や学ぶ意欲に基づく主体的な学習を保障することができる。
- 教師と児童生徒及び、児童生徒どうしのコミュニケーションを図ることが一層可能になる。



少人数教育のよさを意識した授業を行うことが、「授業の改善」となり、「学力の向上」につながっていきます。